

18春闘 改憲阻止 全国一律最賃の確立 大幅賃上げ
働き続けられる労働条件を勝ちとろう！



11月30日～12月1日、静岡県伊東市内において「2018春闘討論集会」を開催し、7全国組合40県医労連173名が参加し、熱心な討論を行いました。

開会にあたり、森田しのぶ中央執行委員長は衆議院選挙結果に触れ、憲法改悪を許さず、人間らしい働き方と大幅賃上げにむけて組織拡大・強化をしながら頑張ろうと挨拶しました。

北海学園経済学部の川村雅則教授が「非正規雇用問題、格差・貧困問題に労働組合はどう取り組むべきか」と題して講演、その後に森田進書記長が春闘構想を報告しました。森田書記長は、①月額平均4万円以上・時給誰でも250円以上の賃上げ、②企業内最低賃金協定「時給で看護師1800円以上・誰でも1500円以上」、③年齢別ポイント賃金、等の要求案を強調しました。また、日本医労連「全国最賃アクションプラン」第3次案を示し、全労連



森田しのぶ
中央執行委員長

**18春闘勝利めざし
産別結集を強めよう**

に結集し「全国一律最賃制」の実現を目指すとともに、必要人員確保と安全・安心の医療・介護実現のためにも産別最低賃金制度新設で賃金底上げを進めるとしました。

報告をうけて加盟組織書記長分科会と分散会に分かれた参加者は、17秋闘から18春闘への取り組みについて積極的な意見交換を行いました。

森田書記長は、「報酬のマイナス改定は人手不足に拍車をかけ、医療・介護崩壊を深刻にするのみ。引き上げの運動強化と共に、これを理由とした引き下げ回答や、回答遅延は許さない。産別結集を強め、春闘勝利、憲法や労働法制をまもるために大いに力を発揮しよう」とまとめました。日本医労連は、18年1月の中央委員会で方針を確定しま

参加者決意

島根県医労連
書記次長 小村 智也



今回初めて春闘討論集会に参加しました。労働組合活動は、「みんなで考え、みんなでやる」これは本堂にしっくりきました。小さなひとりの力を合わせて、組織として強くなっていったらよいと思いました。

医療生協やまがた労働組合
書記次長 伊藤 恵理



秋闘では、産別の力を借り大幅なマイナス回答から昨年並みの勝ち取る事が出来ました。怒りの矛先が経営側に向きがちになりますが、根底には、今の厳しい情勢が関係しています。今春闘では、学びも深い組合員が一致団結して怒りを力に変え要求を実現していきたいです。

講演

**非正規雇用問題、
格差・貧困問題に労働組合は
どう取り組むべきか**

北海学園大学 川村雅則 教授



労働問題を研究している川村先生は、冒頭で「非正規が4割になる中で、非正規をしっかりと組織して労働組合の仲間として一緒に運動していかなければ、正規雇用だけで労働条件を進められない。そもそも非正規と正規で不合理な処遇格差がある。何としても非正規問題を解決していかなければならない」と強調しました。

無期雇用転換運動、最賃・公契約運動、労働教育運動の3点に焦点を絞って語り、期限のない通常の仕事に有期で人を雇うところに根本的な問

**論め
討ま**

**これまでの運動の成果を信じ
全力で運動を強めよう**



森田進書記長

集会初日の北海学園大学川村雅則教授の講演では、「職場や地域から格差と貧困をなくす取り組みこそが、労働者全体の処遇改善や国民生活向上につながる課題と捉え、非正規雇用労働者の諸要求実現に労働組合がもっと視点を向けるべき。そしてそのことが最低賃金の底上げにもつながっていく」との提起があり、まさに私たちがいま力を入れようとしている課題の重要性を確認させていただいた内容でした。

国民の声に耳を傾けずに暴走を続ける安倍政権が続く情勢下で、取り組まなければならない課題はともかく、春闘構想の中でも多くの課題を提起しました。討論集会で出された率直な意見を、18春闘方針案に反映させていきたいと思います。診療・介護報酬改定については、マイナス改定を強く主張する財務省に対して、私たちが引き下げ反対の要請署名などを提出し、適正な評価をした報酬引き上げを求めました。医療関係や介護関係の各団体も、私たちと同様に政府への働きかけを強めており、わずかながらもプラス改定の動きが始めています。

この動きは、これまでの私たちの運動の成果であることを確信し、引き続き報酬引き上げの運動を強めましょう。同時に、報酬改定を理由にした春闘回答の遅延や引下げを許さず、産別結集を強め、春闘勝利、憲法改悪阻止、労働法を守るために全力をあげようではありませんか。



題があること、無期転換運動というのは「労働組合運動の再生」になると、訴えました。他にも公契約条例について述べました。※月刊『医療労働』1月号に講演内容掲載予定。

脈路

関西人の口癖「知らんけど」、無意識に使う「知らんけど」、便利な言葉「知らんけど」。「ラインは便利らしいで、知らんけど」のように発言に関する責任を回避しているのを見えるかもしれないが、実は「不確かな情報ですよ」と知らせているのである。▼スマホなどの発達により簡単に情報が手に入る時代ではあるが、情報が多すぎて情報過多により処理できず自分で考える能力が落ちていると言われている。フエイクニュース」という言葉が象徴するように、これらの情報の真偽や価値をまずは自分自身で判断する必要がある。真偽が定かではない記事を自分の頭で考えることなく鵜呑みにし、さらに他者にシェアしてしまうといった無責任な行動もしばしば見受けられる。▼また心理学では情報が多すぎて処理しきれないような状況を「過剰負荷環境」と呼ぶらしい。アメリカの社会心理学者ミルグラムは、過剰負荷に順応しようとする回避症候群の人々の特徴として4つあげている。①それぞれの情報をできるだけ短時間で処理する。②重要ではない情報は無視する。③責任を他人に押しつける。④他人との個人的な接触はできるだけ少なくする。例えば、電話番号を教えたくない、飲み会に参加しない等だ。忙しさもあるが、この情報過多の状況が対面の議論を避けるなど組合活動に少なからず影響しているのではないかとと思う。知らんけど。



正規と非正規の賃金格差・処遇格差をなくせ!

無期雇用転換 勝ちとろう!



2017年11月18日(土)19日、岩手県花巻温泉にて「第17回 医療と介護にはたらく非正規雇用労働者の全国交流集会」を開催し、全国から60人の参加がありました。

初日は、一般社団法人 カウンセリングルーム Big Smile の産業カウンセラー 大槻久美子先生より「職場で取り組むハラスメント対策」『これってパワハラ?』『本当のパワハラスメントとは?』と題して講演をしていただきました。

山医療生協労働組合の指定報告がありました。翌日は、4つの分散会にて討論が行なわれ、無期転換の問題や組織拡大は、人間関係や信頼関係が重要な要素になる事などが話し合われました。また、初めての参加者からは、今まで知る事の出来なかった組合活動を知ることができたといった感想が寄せられました。

『労働食堂とわたし』 味シミおでん…のように



集会で好評だった「労働食堂」について、岡山医療生協労働組合の花田真人書記長に改めて寄稿してもらいました。

私の小さいころ何かの選挙が始まると近くの集会所なんかで大人たちがワイワイと何かやっている。行くと必ずおでんやソバやなんか作ってあって旨いものにありつけた。思い出は、おでんと中華そばの匂いと笑顔。

私、書記局専従に出向したのが三年前。労働組合・街頭の良い人たちの集まりと、考えていた私にとって労働法や運動論など中学生で止まっていた頭に詰め込むことばかり考えていたある日、ずっと昔の専従に「組合の仕事って何ですか」と相談しました。「専従は組合員さんと友達になるのが仕事」と、言われ何かが見えた気がしました。「そうか、それが一番大事」。そう



気軽にあつまれる場所「労働食堂」

は言っても、栄養科の調理師だ。私の小さいころ何かの選挙が始まると近くの集会所なんかで大人たちがワイワイと何かやっている。行くと必ずおでんやソバやなんか作ってあって旨いものにありつけた。思い出は、おでんと中華そばの匂いと笑顔。

私が、書記局専従に出向したのが三年前。労働組合・街頭の良い人たちの集まりと、考えていた私にとって労働法や運動論など中学生で止まっていた頭に詰め込むことばかり考えていたある日、ずっと昔の専従に「組合の仕事って何ですか」と相談しました。「専従は組合員さんと友達になるのが仕事」と、言われ何かが見えた気がしました。「そうか、それが一番大事」。そう

だ。私の小さいころ何かの選挙が始まると近くの集会所なんかで大人たちがワイワイと何かやっている。行くと必ずおでんやソバやなんか作ってあって旨いものにありつけた。思い出は、おでんと中華そばの匂いと笑顔。

だ。私の小さいころ何かの選挙が始まると近くの集会所なんかで大人たちがワイワイと何かやっている。行くと必ずおでんやソバやなんか作ってあって旨いものにありつけた。思い出は、おでんと中華そばの匂いと笑顔。

だ。私の小さいころ何かの選挙が始まると近くの集会所なんかで大人たちがワイワイと何かやっている。行くと必ずおでんやソバやなんか作ってあって旨いものにありつけた。思い出は、おでんと中華そばの匂いと笑顔。



盛り上がる分散会

だ。私の小さいころ何かの選挙が始まると近くの集会所なんかで大人たちがワイワイと何かやっている。行くと必ずおでんやソバやなんか作ってあって旨いものにありつけた。思い出は、おでんと中華そばの匂いと笑顔。

だ。私の小さいころ何かの選挙が始まると近くの集会所なんかで大人たちがワイワイと何かやっている。行くと必ずおでんやソバやなんか作ってあって旨いものにありつけた。思い出は、おでんと中華そばの匂いと笑顔。

だ。私の小さいころ何かの選挙が始まると近くの集会所なんかで大人たちがワイワイと何かやっている。行くと必ずおでんやソバやなんか作ってあって旨いものにありつけた。思い出は、おでんと中華そばの匂いと笑顔。

だ。私の小さいころ何かの選挙が始まると近くの集会所なんかで大人たちがワイワイと何かやっている。行くと必ずおでんやソバやなんか作ってあって旨いものにありつけた。思い出は、おでんと中華そばの匂いと笑顔。

だ。私の小さいころ何かの選挙が始まると近くの集会所なんかで大人たちがワイワイと何かやっている。行くと必ずおでんやソバやなんか作ってあって旨いものにありつけた。思い出は、おでんと中華そばの匂いと笑顔。

だ。私の小さいころ何かの選挙が始まると近くの集会所なんかで大人たちがワイワイと何かやっている。行くと必ずおでんやソバやなんか作ってあって旨いものにありつけた。思い出は、おでんと中華そばの匂いと笑顔。

一人の仲間の攻撃も

第40回 争議対策会議

産別の力であきらめずにたたかうぞ!!

日本医労連は、11月30日(土)12月1日(日)、この間の教訓やたたかいを交流し、全面解決をめざす意思統一をすすめることを目的に、春闘討論集会と結合して第40回争議対策会議を開催しました。

係争中の争議組合、この勝ち取った北海道医労連・1年間で解決(終結)した恵会労働組合など、たたかいを産別全体で支えるために、全体集会においても争議組合を紹介しました。2017年11月現在、係争中の争議は6県医労連で8件(うち、新たに発生した争議は6件)、前回対策会議以降、9件の争議が解決(終結)しました。会議ではまず組織共闘局から基調報告を行ない、各争議の状況報告を受けて、たたかいを交流しました。基調報告では、争議当初から組合数を5倍に増やし、不当労働行為の救済命令を全国の仲間とともに争議解決に向けた取り組みをすすめていくことを確認しました。日本医労連の争議勝利をめざす基本方針は「一人の仲間への攻撃も産別全体の力ではね返すこと」であり、生活面でも精神面でも厳しいたたかいを強いられる仲間たちへの支援と連帯行動を強めることを確認しました。そして、争議組合のたたかいはの基本として、裁判や労働委員会でのたたかいのみならず、職場での日常活動も強めること。そのことが、職場の組合員の信頼と団結につながる。たたかいの中で仲間を増やすこと。労働者・労働組合への不当な攻撃は断じて許さない決意で他産業や地域の争議への連帯を強めることを意思統一しました。



京都・青いとり保育園不当解雇裁判を支援するみなさん



北海道・恵和会労組のみなさん



街頭宣伝する東京医労連とたんぽぽ分会

係争中の労働組合

- ・北海道医療一般労働組合 川湯の森分会
- ・仙台救急医療事業団労働組合(宮城県医労連)
- ・藤沢病院労働組合(神奈川県医労連)
- ・東京女子医科大学労働組合
- ・東京医労連たんぽぽ分会
- ・京都医労連青いとり保育園分会
- ・佐賀県介護ユニオン
- ・鹿児島県医療福祉ユニオン

患者・住民・医療労働者の共同で

地域医療を守る

職場・地域から150名参加

11月23日、「第8回地域医療を守る運動全国交流集会」が都内で開催されました。主催は、日本医労連・自治労連・中央社保協・地域医療機能推進機構病院等を拡充する会が参加する同実行委員会です。全国から150名

クレプトクラシーを
打破しよう！

記念講演は、本田宏氏が、行ないました。日本の医療や社会保障が先進国最低レベルになってしまった原因を、明治維新以来続くクレプトクラシー（収奪・盗賊政治）にあると指摘。医療等社会保障崩壊・格差拡大、戦争法から共



平和にくらしと医療・介護

～誰もが人間らしく 生きられる社会を～

本田 宏氏
(NPO法人医療制度研究会)

日本の最低賃金・生活保護
・年金など社会保障は先進国

で最低水準です。これは明治維新以来クレプトクラシー（収奪・盗賊政治）が続いているためです。安倍政権は、小泉政権の3倍にあたる、3・4兆円（5年間）の社会保障費を削減する一方でリニア新幹線に3兆円かけています。憲法25条など全く守られていません。

政治を変えて 医療を変えよう

2017年10月の総選挙は、戦後2番目の低投票率でした。一方、福祉国家のスウェーデン・アイスランド・デンマークは80%を超えています。政治に関心を持つ国では

リニアもオリンピック招致もありません。国民がそれを許さないからです。日本でも、2009年民主党政権交代時には69・3%の投票率でした。年金・天下り問題に対して国民が怒りを持ったからです。政治を変えずに医療・介護・社会保障はよくなりません。医療関係者も患者であり、患者家族です。職場の問題点を



知っている我々が伝え、変えていく必要があります。キーワードは「Patient First 患者第一」。政治に関心を持ち、諦めず草の根で広げていきましょう。

※詳しくは「月刊『医療労働』3月号」に掲載予定です。



中村 暁氏

地域医療構想をめぐって」と題して、中村暁氏（京都府保険医療協会事務局次長）が報告しました。協会や社保協が府

自治体・住民・医療関係者で地域実態の共有が大切！
特別報告では、「京都府の

調査・分析に結びつけたこと。



鎌倉幸孝氏

「住民説明会」を開催し、自治体職員と住民・医療関係者が地域の現状を学び共有したことなどの結果、府独自の「構想」をつくらせた経過がリアルに語られました。

交流し運動の発展を！

基調報告は、鎌倉幸孝氏（日本医労連副委員長）が実行委員会を代表して行ないまし

た。国の地域医療政策と地域の実態を明らかにしつつ、政府により医療・介護・福祉など、社会保障の全面的な切り捨てがすすめられるもと、本格的に動き出している医療提供体制の縮小・削減を許さず、地域医療をまもり拡充させていくために、全国各地の経験

「いの健」総会で取り組み交流

12月8日、「働くもののいのちと健康を守る全国センター」（いの健）の第20回総会が都内で開催され、全国からの参加者が取り組みを報告しました。方針提案を行なった岩橋事務局長は、過労死等防止対策推進シンポジウムが17年度は全都道府県で開催されたことなどを報告し、課題を具体的に解決していくためにもセンター機能を強化していくとしました。

日本医労連は看護・介護の実態を報告し、退勤時間調査

を交流し、今後の運動の前進につなげていきましょう」と呼びかけました。

3つの分散会で経験交流！

分散会では、各3名からレポート報告を受け、参加者の取り組み状況や、これからの運動への方向性などが活発に意見交換されました。

◆レポート報告者紹介◆

①「泉州の地域医療を守る報告」吉田昭仁（自治労連）
②「『地域医療構想』は東京

の地域医療課題、都民

要求にこたえるのか」

高橋美明（社保協）

③「東日本大震災からの復興、福祉・医療の実態と課題」小玉高弘（宮城県医労連）

④「医療・介護問題の取り組み若藤美鈴（自治労連）」

⑤「国保都道府県化に向けての取り組み」藤



給食は治療に直結 医療・介護を支えるぞ

給食問題全国交流集会

11月25・26日、福島県飯坂温泉で「第27回日本医労連病院給食問題全国交流集会」を開催し57名が参加しました。病院給食は治療につながる重要な要素であり、給食に携わる私たちも医療・介護を支えるチームの一員であることを日々の取り組みを交流する中で確認し、病院給食の患者負担引き上げ反対よりよい給食提供のために奮闘しよう、と意思統一しました。

特別報告で情報交流

基調報告の後、①「超高齢



師部会発足とその活動が調理師のモチベーションを上げ知識と技術の向上につながったことや、都議会へ病院給食の自己負担引き上げ撤回を求める署名、請願提出を行なったこと、徹底した衛生管理などについて報告がありました。

長野医療研で再討論しよう

分科会・分散会では、人手不足、職場内でのコミュニケーション、有休の取りづらさの問題や食材の地産地消、緩和ケア食の問題、病院側からの職種替えの提案に労働組合に集結する大切さなどの幅広い意見の交換を行ない、次回の長野医療研で再討論しよう

財務省要請 ●医療団体連絡会議●

診療報酬大幅引き上げを

2002年以降、連続したマイナス改定による累計10%以上の診療報酬引き下げや、社会保障費の自然増の抑制によつて、受診抑制や過密労働が強まり、医療機関の経営が厳しくなっている。医療従事者の勤務環境は極めて重要な問題。働きやすい、人間として当たり前の生活ができるようにするには、

日本医労連・森田氏のぶ中央執行委員長は、日本医労連が行なった「看護職員の労働実態調査」から、「看護師の7割が辞めたいと思ったことがある、その理由として低賃金と過酷な労働環境が上位にあがる。医療従事者が働き続



要請する森田委員長（中央）

い」という認識を示したものの、「社会保障は最大の財政項目。これを中心に重点化、効率化、適正化しなくてはならない。余力のある人、働いている人に負担していただく応能負担が原則だと考える」と述べました。

戦争に協力しない 「労使協定・共同宣言」116事業所

	労使協定			労使共同宣言		
	加盟組織数	締結単組数	締結事業所数	加盟組織数	締結単組数	締結事業所数
	18	34	42	30	58	74
北海道		5	7		5	5
岩手					1	1
宮城					2	2
山形		5	5		4	4
福島		1	1		1	1
茨城					2	2
群馬		1	1		4	4
埼玉					1	1
山梨		1	4		1	4
長野		3	4		5	5
東京		4	6		6	11
新潟					1	4
愛知		2	2		2	2
滋賀					1	1
京都		1	1		1	1
大阪		2	2		2	2
兵庫					3	3
奈良					1	1
島根		2	2		2	2
岡山					3	3
広島		1	1		1	1
山口					1	2
徳島		1	1		1	1
香川		1	1		1	2
福岡					1	1
長崎		1	1		1	1
熊本					1	3
大分		1	1		1	1
鹿児島		1	1		1	1
沖縄		1	1		1	1



日本医労連は12月8日、「戦争に協力しない労使協定・労使共同宣言」の取り組みを記者発表し、引き続き憲法改悪反対・平和まもる運動を強化していくことを表明しました。(表参照)

72年前の今日、日本は真珠湾を攻撃し太平洋戦争へと向かったと口火を切った森田委員長は、従軍看護婦として徴用された先輩たちの痛苦の経験から「ふたたび白衣を戦場の血で汚さない」を胸に、日

本医労連は平和運動を取り組んできたと挨拶。同席した高橋副委員長はこの取り組みの意義を説明、全日赤・五十嵐委員長は日赤の状況を報告しました。NHK、読売、赤旗が取材しました。

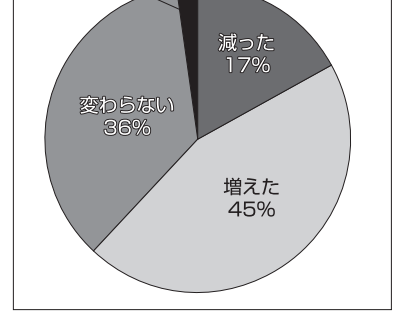
今後、春闘でも経営者に要求すると同時に、3千万署名を成功させます。

この間、政府は医師の業務負担軽減策をとってきましたが、効果が出ていないことを証明する結果となりました。この2年間で「業務負担は変わったか」について「減った」

「健康に不安」33・8%、「大変不安」3・9%、「病気がち」2・8%と、約4割の医師が何らかの健康問題を抱えていました。最近辞めたと思ったかの問いに、「いつもあった」7・5%、「時々あった」23・5%、「まれにあった」28・8%と、約6割の医師が「あった」と回答

「業務量「増えた」約5割

業務負担はこの2年で変わったか【グラフ①】



全国医師ユニオンや日本医労連等で実行委員会を立ち上げて実施した「勤務医労働実態調査」は、11月に中間報告として記者会見を行ない、その劣悪な実態の改善を求めました。調査は17年7月から9月末まで実施し、1800名の医師からの回答を集約しました。来年1月に最終結果を公表する予定です。

「健康に不安」33・8%、「大変不安」3・9%、「病気がち」2・8%と、約4割の医師が何らかの健康問題を抱えていました。最近辞めたと思ったかの問いに、「いつもあった」7・5%、「時々あった」23・5%、「まれにあった」28・8%と、約6割の医師が「あった」と回答

「業務量「増えた」約5割

「健康に不安」33・8%、「大変不安」3・9%、「病気がち」2・8%と、約4割の医師が何らかの健康問題を抱えていました。最近辞めたと思ったかの問いに、「いつもあった」7・5%、「時々あった」23・5%、「まれにあった」28・8%と、約6割の医師が「あった」と回答

勤務医の過重労働改善されず

(2017勤務医実態調査中間報告)

は16・9%、「増えた」が45%でした。【グラフ①】

「増えた」が「減った」をかなり上回り、「診察時間」約3割、「文書作業」4割強、「会議・委員会」5割弱など、著明な悪化となりました。

完全な休日を増やして

労働条件の改善希望(複数回答)については、「完全な休日を増やす」がトップ【グラフ②】で、「当直・日直回数を減らす」「通常の業務を減らす」と続きまし

た。改善に有効な方法に関しては、ダントツで「医師数の増員」で、「無駄な業務等を減らす」「医療補助員の増員」「看護師増員」となっています。

結果から、①未だに多くの医療機関で労基法が遵守されず、勤務医に適切な労務管理が行われていないため、当直問題を主要とする長時間労働問題が解決していない、②診察時間「文書作業や会議」など業務量が増え、勤務医の負担感が増加、③何より「完全な休日を求める声が多く、1ヵ月に休みゼロ日の医師を無くすことは喫緊の課題、④問題

増員で働き方守る

解決には医師増員が絶対条件、⑤長時間労働は判断力や集中力の低下を招き、医療安全に危険、⑥診療科の偏在には労働条件が大きく関わっており、改善策とリンクした対策を早急に行なう必要がある、と指摘しています。

全ての職種の大増員を求められま

「組織一律」加入

ご検討下さい

29期の活動方針では、単組・支部の取り組みとして、「組織一律」共済への加入を呼びかけました。この間、「組織一律」共済のスタートマニュアルも活用いただき、11組織で開始しました。

「組織一律」は、組合員全員で「医療」「慶弔」「生命」「交通」などに加入する制度です。たとえば、組合員一人月400円です。4口に加入して、入院1日2千円、休業1日1千円を保障したり、「交通」1口月1000円を上乗せして、交通事故死亡

等には200万円の備えをするなどしています。なかには組合費以外に共済掛金を集めて「組織一律」加入をする単組・支部もあります。

「組織一律」に加入していれば、組合員の病氣や慶弔にもアンテナが高くなりますし、労働組合活動の「見える化」にもなります。

単組・支部で議論をするためのスタートマニュアルを用意しました。必要部数を取り寄せて、制度導入にむけた議論をお願いします。

医労連共済だより

付度強要のアベ政治を 国民の怒りと共闘で追い込む

【飛ぶ鳥を落とす勢い】でやって来られたというところでしょうか。こんな政治を来年も続けさせるわけには行きません。

国民の怒りと共闘は続く

総選挙投票日の3日後、財務省・財政制度等審議会は2018年度診療報酬改定について、2%半ば以上のマイナス改定を提案しました。選挙中、厚労省は介護事業経営実態調査の結果公表をせず、選挙後に先送りしていたと報道されました。政権への「付度」が目にとります。辞書を引くと「付度」は、「おしはかって相手に配慮すること」とありますが、こんな政治が続くと、「権力者の言うままに従うこと」と、意味が換わる気がします。

加計問題では、「35億」どころか37億円の土地無償提供と96億円の補助金が「総理の意向」で進められ、疑惑への説明もない中で、11月14日に文部科学大臣が獣医学部新設を認可しました。11月28日には「インスタ映え」する瀬戸内の海が全国紙の一面を飾り、加計学園の獣医学部開設の広告が掲載されました。「フエイクニュース」かと目を疑い、国民をバカにする「安倍ファースト」な行為に怒りを覚えました。

特別国会でも、安倍首相の謙虚や誠実とは程遠い姿勢は変わることなく、憲法9条2項への自衛隊の書き込みなど改憲を行なうこと

を表明し、会計検査院が根拠不十分とした森友学園問題についても、疑惑追及にはまともに応えようとしません。後期高齢者の医療費2割負担や要介護1、2の保険給付外などへの国会での追及にも、まともに答弁はしませんでした。

自民党の候補者選定や官僚の人事権、国会での多数の議席を握り、四年だけに

医療の眼

から2割に引き上げようとしており、所得は少なく病気が増える世代への負担増に不安は強まっています。

国保料の4万円の上限引き上げでは、自治体格差はさらに広がり、所得の中間層まで負担増となり、怒りの声は強まっています。介護分野の要介護1、2の保険給付外では、2014年の介護保険改悪と合わせれば、介護認定者の6割がサージス外となる状況で、批判は強まっています。

働き方改革をめぐっても、無期雇用転換では、法の抜け穴への批判が強まると同時に、無期への転換の取り組みと、非正規雇用で働く仲間の労働組合への組織化が進められています。

医師の働き方でも厚労大臣が、時間外労働の規制について言及するなど、運動の足がかりが作られました。

医療や介護でも改悪を許さず、運動を広げて「安倍政権NO」の声を突きつけることが大切です。「29連勝」とはいかないまでも、安倍首相が「睡眠負債」を溜めてギブアップするまで医療・介護分野のたたかいを進め、8時間働けば暮らしていける社会、みんなが「プレミアムフライデー」を楽しめる社会を築きましよう。来年は成年。【いぬも歩けば棒にあたる】ように、みんなで動いて成果を勝ち取る年にする議論をしていきましょう。

内田博之